

## 都市農村交流を通じた条件不利地域の活性化 - 里山保全活動を対象として -

三宅康成

兵庫県立大学環境人間学部

## Revitalization of Rural Community in Less Favored Area Through Rural-Urban Exchange - Focusing on Satoyama Management Activity -

Yasunari MIYAKE

*Ph. D., Associate Professor, School of Human Science and Environment,  
University of Hyogo*

**ABSTRACT** : In less favored areas, it is getting more difficult to manage Satoyama according to aging of rural residents and depopulation. Some support of urban residents are necessary for management of Satoyama. In this paper, the role of Satoyama management activities was clarified through the analysis of the feature of activities for managing Satoyama. The questionnaire and interview surveys were done in order to clarify the actual conditions for management of Satoyama and activities of urban residents who are participating in NPO in Hyogo Prefecture. The results of analysis are as follows. ①The form of rural-urban exchange in Satoyama is different in each Satoyama. ②The urban residents are contributing to the region very much on both sides of the manager and the visitor in Satoyama. ③Many urban residents visit Satoyama for the purpose of enjoying the variety of nature and culture programs in rural area. ④There are some urban residents who participate in activities for managing Satoyama even if Satoyama is far from their residence. So it is important for rural residents to arrange the condition that they can visit rural area without difficulty.

### 1. はじめに

#### 1. 研究の背景

里山は、奥山と都市の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成され、かつては農林業などのさまざまな人間の働きかけを通じて多様な生き物を育んできた。しかし、昭和30年代より薪や炭の燃料に代わって、ガスや石油、電気などのエネルギー源が利用されたことや、化学肥料の発達により有機質肥料が使われなくなったこと、木材や竹などの天然素材を使用しなく

なったことで、里山林と人々の生活の関わりが薄れてきた。さらに近年は過疎化等による手入れ不足や開発等により、里山林の質的低下や消失が進行し、深刻な問題となっている。

一方、里山林をはじめとして森林の持つ水源涵養、土砂流出防止等の多面的機能が大きく評価されている。人工林の要保育森林や伐採跡放棄地を対象に環境林として整備し、野生動物の生息環境の改善など多面的機能の再生を図る動きもある。近年、これら里山環境の再生に、少なからず都市住民の参加が見られるようになり、里山そのものの維持管理に加えて、地域住民との交流を通して地域そのものの再生に取り組みられるようになっている。

Corresponding author : Yasunari Miyake

Tel & Fax : +81-79-292-9364

E-mail : miyake@shse.u-hyogo.ac.jp

#### 2. 研究の目的

市民による里山保全活動は、1990年以降全国各地で展開し、その活動内容は調査活動から現地作業まで幅広く、活動団体間のネットワークも進みつつある。本稿は、里山保全活動の現状と活動を支援する都市住民の動向の両面からの分析を通して、都市と農村の交流に基づく里山保全の現状を明らかにし、保全活動の地域に果たす役割や課題を検討する。

### 3. 研究の方法

里山の管理は、地域住民だけで行うことは困難な状況になっており、都市住民の何らかの関与が重要な位置づけを占めるに至っている。研究対象は、異なった管理主体(行政, ボランティア団体, 地域住民)によって活動されている兵庫県の3事例とした。現地調査, 聞き取り調査によって、それぞれの主体ごとの活動の実態を把握するとともに、特徴を比較的に分析し、活動の課題を考察する。さらに、活動に参加する都市住民のデータとして、兵庫県下23カ所で活動を行っているNPO法人「ひょうご森の倶楽部」(以下、適宜、「倶楽部」略すことがある)を対象として、活動の現状を探り、その特徴を明らかにする。

なお、対象とする里山は以下の3つである(図1)。

- ①「なか・やちよの森公園」(兵庫県多可町中区糶屋)：行政(県)の公園スタッフが管理し, 都市住民によるボランティアが参加している事例
- ②「観音の森」(兵庫県多可町中区奥中)：都市住民によるボランティアが活動主体となっている事例
- ③「中坪ふるさとむら」(兵庫県宍粟市一宮町東河

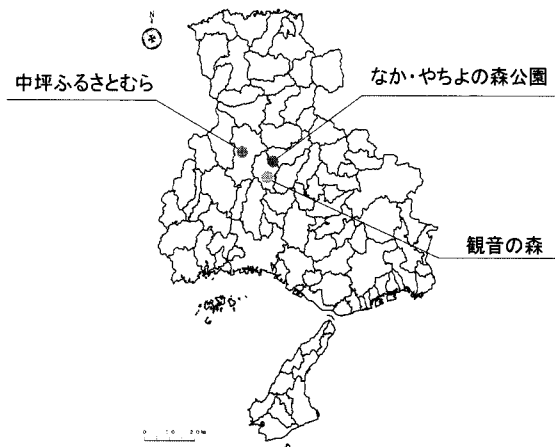


図1 対象地(里山)の位置

内)：地域住民が管理し, 都市住民とともに活動している事例

## II. 里山保全の実態

### 1. なか・やちよの森公園

#### (1) 里山(公園)の概要

「なか・やちよの森公園」(2003年3月23日開園)は、兵庫県多可町に位置し、豊かな自然と親しみ、森づくりを楽しむことができる公園である。湖畔の広場では、田畑・森の果樹園・ビオトープ池や森の回廊など、多様な動植物が生息する豊かな里山と水辺環境がある。地元と都市部の人々の交流を基にしたネットワークを拡大し、多くの人々に里山の自然や文化を楽しむながら守ってもらう公園としている。

活動の主体である里山づくりボランティアは常時募集している。クラフト, 自然観察, 炭焼きなど一般向けのプログラムを企画・運営するほか, ボランティア自身で田畑管理や森の保全を行う。公園内48haの土地は村有であり, 20年間無償で貸与されている。

スタッフは職員5名, アルバイト2名で運営している。ボランティアはイベントを含む月2回が活動日となっている。イベントではボランティアが自分たちも楽しんで一般者も巻き込むという形になっている。

グループのリーダーは専門的な知識のある倶楽部会員が務めているところもあるが, 素人が多いという。グループの先生として加美町の森林組合に頼んだり, 専門家を呼んできたり, 専門知識が必要な活動については講習会をボランティアに任せている。また, 子供用に「みどりレンジャー」(活動は2月に1回)というグループもある。森林の中での作業や学習を通じて, より森林に親しんでもらうために行うもので, 子供だけの宿泊体験や虫の研究等を実施している。

#### (2) 運営体制

年間86件(2004年)のプログラムを実施しており, スタッフ7人が担当する。活動の運営は以下の4つのグループ毎にテーマを設定して行われている。参加者は自分の興味のあるグループを選択する。

①里山を育てるグループ：多様な森づくり, 継続的に自然と関わる活動, 樹種転換を含めた森林整備, 落葉樹の育苗, ワラビ, ゼンマイ, ヤマイモなどの林間栽培, 子供向け体験学習プログラム, 散策路などの補

修など。

②里山に集うグループ：土作りからの安全な野菜栽培，無農薬の稲作，実のなる樹の植樹，里山らしい景観の創造，炭，木酢作りなど。

③里山を楽しむグループ：ベンチ・テーブル・案内板などの製作・設置，森の木を使った各種クラフト，蔓を使ったリース・籠作りのプログラム開催，野草園や四季の花壇作り，ハイキング・ネイチャーゲームの実施など

④里山に学ぶグループ：昆虫・植物の観察など学習の場の提供，巣箱・餌台などの設置，キノコの観察・調査・栽培等，植物(山野草など)の観察・調査・栽培等，ビオトープ池作りなど。

年齢別に見たボランティア参加者数とプログラム参加者数を表1，表2に示す。

多くのボランティアが活動に参加し，2003年には企画されたプログラムに2,500人近くの参加者を得て活動を行っている。しかし，地元と都市住民との交流を目指しているにもかかわらず，地元集落との関係はほとんど見られない点が課題である。

表1 ボランティア参加者数

(2003)

年齢層	参加者数 (人)	割合
0～20歳	768	31%
21～40歳	468	19%
41～60歳	688	28%
61歳～	534	22%
合計	2,458	100%

表2 プログラム参加者数

(2003)

年齢層	参加者数 (人)	割合
0～20歳	768	31%
21～40歳	468	19%
41～60歳	688	28%
61歳～	534	22%
合計	2,458	100%

## 2. 観音の森

### (1)里山の概要

「観音の森」(兵庫県多可町中区奥中 145戸600人)が所在する中区は「日本のへそ」といわれている西脇市に隣接し，緯度，経度ともにほぼ日本の中央に位置し，阪神間からは車で2時間程度の距離にある。人口は12,000人弱で漸減傾向となっている。土地利用は，森林が約54%を占め，町中央部の平坦地には農地と集落及び市街地が形成されており平地農業地域に属し，いわゆる「のどかな田園地帯」といえる。気候は瀬戸内式気候に属するが，沿岸部に比べ寒暖の差が大きく内陸部の特徴がある。

観音の森の面積は，全部で189,079㎡を占める。雑木が殆どであるが一部人工林もある。山は民有林であり，23名の所有者からなる土地である。所有者に活動の許可を得て，里山の管理作業はボランティアに全て依存している。

### (2) 運営体制

観音の森では倶楽部が管理にあたっている。観音の森に関わる倶楽部会員は当初40名であったが，現在27名程度になり，月1回の活動はほぼ固定メンバーで行っている。会員は兵庫県23ヶ所の活動地を回っており，活動日は日曜が多いので，なるべく重ならないよう調整している。

対象となる活動は，里山再生プロジェクトに沿って行われており，里山整備を目的としている。倶楽部の会員と地域住民により里山再生委員会を作り里山の整備計画を策定し，設定された複数のエリア毎にチームを組んで，リーダーを中心に活動を行っている。炭焼き窯，休憩小屋などの施設整備も行われた。他の活動地で活動している人の参加や初心者の参加も可能である。

地区では地域住民が友好的であり，倶楽部が村の行事に関わることができるようになった。地元の理解があるのは強みであるが，地元の代表者(区長)が地元側の窓口となってボランティア参加者との連絡等を行っている程度の関係であり，実際に地域住民は作業には関与していない。行政との関係についても，活動実施日が休日になることが多く，関係も薄れつつある。情報発信・啓発が少ないので宣伝不足が課題となっている。

## 3. 中坪ふるさとむら

「中坪ふるさとむら」は宍粟市一宮町中坪に所在

し、対象とした里山(37ha)は4集落(本谷・福田・山田・中坪)が所有する山林である。管理は殆ど中坪集落の人全体(37~38戸)で行ってきた経緯がある。里山は4集落の代表である「東河内住民総理」が統括している。この里山を「くりがら」と呼び、薪炭材を採取する目的の他に1960年代中頃までは牛の放牧を行っていた。その後、都市化に伴う生活の変化によって、里山の役割が次第に薄れていった。

この里山を再生しようとする動きが始まったのは2001年のことで、先代までに培ってきた炭焼き技術を引き継ぎたいという意欲に源を発している。自治会のバックアップのもとで、同年炭焼き窯を再現した。2003年には、兵庫県の事業「ふるさと村」<sup>1)</sup>に参加し、県内各地から「ふるさと会員」を募集し、自治会の行事へ参加を促す取組みを始めた。2004年には兵庫県の里山整備事業が実施された。

中坪地区には「天役(てんやく)」という集落皆でボランティア作業する制度があり、年に1回、草刈作業を行っている。作業は男性のみ30人余りが参加し、時間にして1回2時間程度である。草刈は年に1回程度であったが、里山整備事業が完成し、管理エリアが広がってからは年3回に増やした。特に、散策路や子供が多く利用する広場を重点的に行っている。

表3にふるさと会員の居住地を示す。登録中のふるさと会員は男性14名、女性12名で年齢は18歳から68歳まで、夫婦や親子など様々である(平成17年10月時点)。ふるさと村に登録されてからはふるさと会員も草刈に参加している。草刈機は各家および集落所有の物を貸出しており、道具無しで来訪し、気軽に参加できるようにしている。その他に収穫祭やそば刈り、そばうち等のイベントを実施している。

表3 ふるさと会員の居住地と人数

出身地	人数
龍野市	1
姫路市	4
加古川市	1
明石市	1
加古郡	2
神戸市	5
宝塚市	2
大阪市	2

### III. 事例の特徴比較

表4に3事例の概要を示す。管理主体はなか・やちよの森が行政、観音の森がボランティア団体、ふるさとむらが地域住民と3者ともに異なっている。活動主体については、ふるさとむらが地域住民主導で進められているのに対し、他の2事例では都市住民主体である。

表5に事例の特徴を要約した。地元との関わりはなか・やちよの森や観音の森ではほとんど見られないのに対し、ふるさとむらでは主体的に活動を行っている。活動対象の規模は事例によって大小があるが、1人当たりの面積を計算すると、ふるさとむらは約12,000㎡となり、なか・やちよの森の約3,700㎡と比べて、対象面積がかなり大きくなっている。地域住民が主体となって管理を行っていることから考えても、その負担は相当に大きくなっていると言える。ただ、集

表4 3事例の概要

	なか・やちよの森	観音の森	ふるさとむら
活動開始日	2003年 03月 23日	1997年5月31日	2001/06/01
目的	都市と農村の交流	里山再生	里山管理
管理主体	公園事務局 (行政)	管理協議会 (ボランティア団体)	自治会(地域住民)
活動主体	特定有志, 不特定有志 (都市住民)	ボランティア団体 (都市住民)	中坪集落, ふるさと会員(地域住民・都市住民)

表5 3事例の特徴

	なか・やちよの森	観音の森	ふるさとむら
土地の持ち主	村の山	民有林	4集落(所有界なし)
活動内容	四季折々のプログラム	エリア区分して整備活動	草刈が主
地元との関わり	殆ど無い	以前はイベントに参加	地元が主力
活動地面積	480,000㎡	189,079㎡	370,000㎡
人数	約130人	現在27人程度	山仕事は男性30人余
年齢	50～60代	60代～	30代～
資金	法人県民税の超過課税	緑の羽根募金事業	自治会費
地区の人数	—	奥中145戸人	中坪38戸人

Z落を挙げて活動を行っているため、比較的若い世代からの参加が見られることは好材料である。

一方、観音の森ではボランティアが管理を一手に担っている。というものの地域住民とNPOとの関係は良好である。実際には地元住民は管理に参加していないものの、都市住民の参加には友好的であり、倶楽部会員からは活動がスムーズに行えるといった優れた評価を受けている。

の中から組織化の必要性の声があがり、約50名の有志が集まって設立に至っている。人手が入らず荒れてしまった森を、森に親しみながら手を加えることで、自然と共生できる豊かな森にするために各種保全活動を行っている。

倶楽部は会長、副会長、運営委員会20名、事務局(神戸市中央区)からなり、運営及び活動の企画・立案を行う。さらに運営委員会に次の部会を設置している。

- ①森林ボランティア活動部会：活動地の調査、リーダー会の開催等
- ②森とのふれあい活動部会：イベントの企画、運営等
- ③倶楽部の森づくり部会：場所の選定、計画、実行等
- ④里山再生部会：里山再生プロジェクトの計画、実行等

#### IV. ボランティア団体の実態

##### 1. ひょうご森の倶楽部の概要

ひょうご森の倶楽部は1996年4月に設立された森林ボランティア団体である。前年の1995年に兵庫県(森林ボランティア講座修了者(森林ボランティア親林隊)

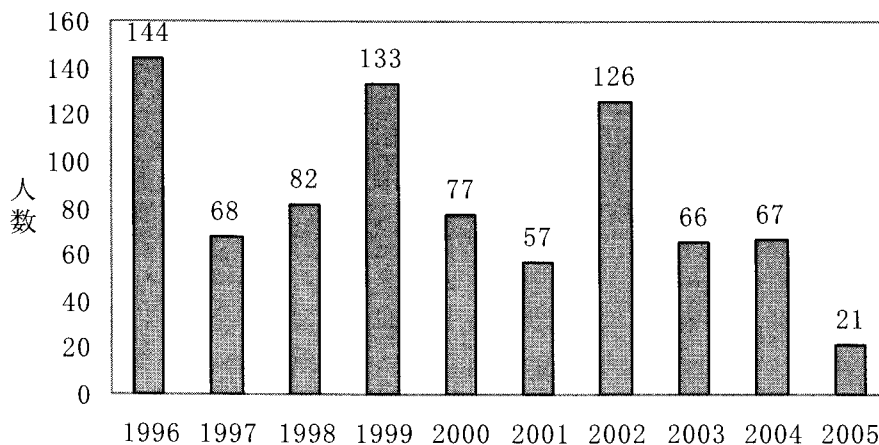


図2 ひょうご森の倶楽部会員の入会年

表6 活動実績

活動地名	活動日数 (日)	参加者延べ人数 (人/日)	作業実績 (ha)	道作り (m)
養父市関宮	5	16	0.03	0
養父市奥米地	10	73	0.10	0
養父市八鹿	14	39	0.16	0
朝来町土肥	8	49	0.25	0
丹波市氷上	10	72	1.69	0
猪名川市柏原	23	242	0.31	50
篠山市遠方・桑原	12	131	1.10	200
丹波市市島	10	66	1.00	0
川西市黒川	13	217	0.91	0
龍野市広山	75	304	4.80	130
市川町下牛尾	10	47	1.65	0
龍野市福田	14	256	0.25	110
赤穂市西有年	10	60	3.00	100
西脇市出合町	10	147	2.10	0
八千代町楊柳寺	11	105	0.80	60
中町奥中	12	267	0.11	300
倶楽部の森三木山(三木市)	9	245	1.50	210
倶楽部の森弁財天(加古川)	11	122	0.50	30
神戸市太子の森	11	94	0.95	0
神戸市布引	11	187	1.00	200
君影小学校林(神戸市)	1	19	0.01	0

表7 活動地と活動内容

地域	活動地名	作業内容
但馬地区	養父市関宮町吉井	除間伐や遊歩道作り, 落葉広葉樹の植樹
	養父市八鹿町三谷	里山周辺の整備, 猪避けの柵作り
	養父市奥米地	30~40年の杉・檜の間伐作業が中心
	朝来町土肥	檜・松の人工林を間伐, 落葉樹であるコナラ・栗等の混交林化
丹波地区	丹波市氷上町向山	間伐作業と遊歩道の補修, 間伐材の製材など
	篠山市遠方・桑原	除伐・枝打ち・間伐の整備作業, 村営のキャンプ場の遊歩道整備
	猪名川町柏原	除伐と遊歩道の整備, 冬場に竹炭焼き
	丹波市市島町上田・梶原	雑木林・人工林の手入れ
西播地区	川西市(池田炭)黒川	池田炭(菊炭)の原木(クヌギ)林の手入れ
	龍野市広山	枝打ち・下刈り・道作りなどの檜林の保全, ひのき・竹炭のドラム缶焼き
	龍野市広山(水曜会)	
	市川町下牛尾・岡部	人工林の間伐・枝打ちなど里山整備が中心
	龍野市福田	コナラ・アバマキの高木林化
赤穂市西有年	檜林の枝打ち・除間伐	
東播地区	西脇市出合	里山の景観整備と間伐
	八千代町楊柳寺	檜林の枝打ち・除間伐が中心
	中町奥中	湿地植物観察会, 竹炭焼き, 下草刈り・除伐作業
	倶楽部の森(三木市三木山)	遊歩道作り, 常緑樹の除伐・下草刈り, 花木の育成
	倶楽部の森(加古川市弁才天)	花のある里山づくり, 下刈り・雑木林の除伐・道作り
神戸市	太子の森	倒木・枯木・下刈り・枝打ち等の整備, 傾斜地の土留め, 野鳥を呼び戻すための整備
	布引・世継山「ハーブ園」	除間伐, 枝打ち, 下草刈り, 遊歩道作り, ヤブラン群生地保全
	君影小学校学校林	森の教室, 炊飯広場, 遊歩道などの整備, 学校林の手入れ

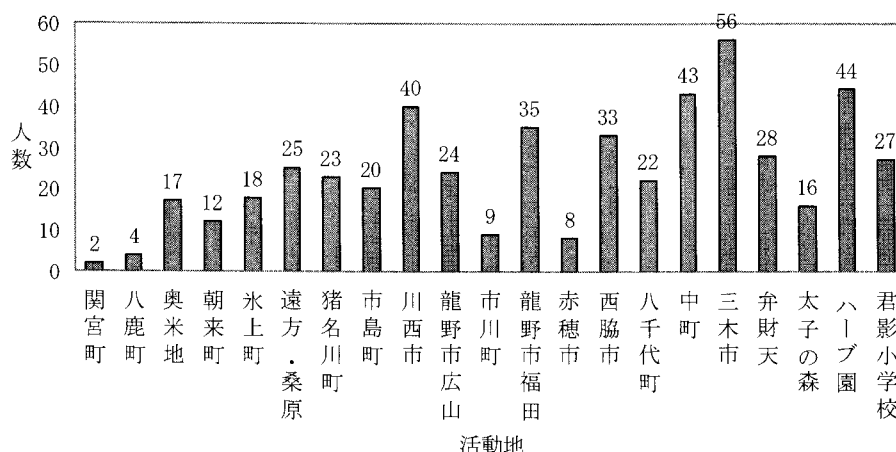


図3 活動地における会員の参加人数

- ⑤広報部会：広報活動，機関誌の発行等
  - ⑥総務部会：研修計画，資金計画等
- 年毎の入会者数を図2に示す。

## 2. 活動の実態

倶楽部の活動内容は主に、①里山林・人工林などの森林整備活動，②森とのふれあい活動，③情報の提供にが挙げられる。①はスギやヒノキの林での枝払いや抜き切り，雑木林での柴刈りや歩道づくりなどを内容とし，②は炭焼きやクラフト，自然観察会など誰もが森と触れ合える行事を開催するものである。③は倶楽部の活動や読み物などを掲載した機関誌を作成し，情報発信する活動で，年4回発行している。その他，合宿森林ボランティア活動やイベントなどを随時企画，実行している。

各活動地別の活動実績を表6に，活動地毎の活動内容を表7に示す。

図3 に活動地毎の参加人数を示す。参加者の平均人数は24人となった。人数の少ない関宮町と八鹿町は冬場が積雪のため活動は休みとなっている。八鹿町は，過疎進む山里の空間整備の中に森林の整備が含まれるという活動で，田舎のふるさとづくりに関わることができる。全活動地の中で最も北にある活動地である。関宮町は，標高700～800mの里山林で地元民と除間伐や遊歩道作りや，各自の趣味を楽しむよう活動している。また，炭焼き窯を地元の炭焼き経験者の助言で復元し，炭焼きや窯の復元を通じて地元民との交流を深めているようで，レジャー性が強い。会員の参加人数

が少ないのは，作業よりも自然とのふれあいが多い活動地のため，地元民が多く参加しているためと思われる。里山保全活動は会員の人数に関係なく，会員は個人で活動できる。川西市は800年以上前から里山林として残された全国唯一の地域であり，茶の湯で使用される最高級炭の「菊炭」の原木林クヌギ(台場クヌギ)の手入れが主な作業。他の活動地に類をみない歴史ある池田炭(菊炭)の原木林台場クヌギの手入れだけあって，文化継承の手伝いができるという付加価値のある活動地である。ここは環境庁の里地・里山保全地域(全国4箇所)に指定された。里山林の代表的教材にも使われ，歴史の重みも体験できる活動地は人気が高いのではないと思われる。ハーブ園は神戸市中央区にある。「ロープウェイ神戸夢風船で行くボランティア活動」というキャッチフレーズがあり，活動参加者はロープウェイの割引券が利用できる。駅からロープウェイ乗り場まで5分と，活動地まで行きやすいことが参加人数が多くなる要因と考えられる。三木市の三木山は市街地に近い上，ボランティア活動初心者を特に歓迎しており，指導はもちろん，道具も倶楽部が準備してくれる。都市(神戸市，明石市など)から至近の距離にあり，毎回新規の参加があるという。作業道の敷設，除伐，下草刈りの作業に加え，花木の先生や蔓編み名人がおり，様々な体験ができる。ま

た，ひょうご森の倶楽部専用の森であるため，参加者が多いと思われる。

次に，活動参加者が活動地に訪れた回数を調べた。集計結果を図4に示す。「13回以上」の範疇で最も多

いものは54回となっている。月1回の活動日に加え、希望者が3人以上集まればいつでも臨時活動を行うという非常に意欲的な活動地や、週に2回も活動を行っている活動地がある。

### 3. 活動の特徴

倶楽部会員の居住地から活動地までの距離および活動回数を調べた。対象は兵庫県内の会員とし、居住地は便宜上、当該市町村の役所所在地とした。

図5は活動状況を示したものである。居住地と活動地を直線で結んでいる。40活動地全体の平均距離は27.4kmであった。特徴として、会員は活動地の選択においては、必ずしも居住地に近い活動地を選んでいるわけではないことがうかがえる。場合によっては80kmを超える遠隔地に複数回以上出向いている会員もいる。これは、活動地までの距離だけでなく、活動地の好みなど他の要因も活動地の選択に影響を与えていることを示しており、条件整備によっては遠方でも都市住民を引きつけることが可能であることを物語る

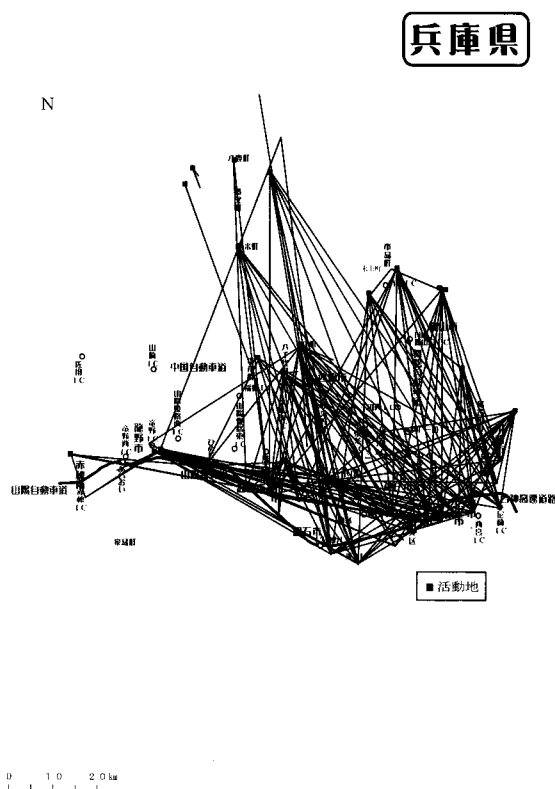


図5 都市住民の活動状況

ている。会員に対するインタビュー調査においても、このことを支持する意見が確認されている。

## V. まとめ

調査事例とボランティア団体の活動実態を通じた分析の結果、保全活動の特徴は主に以下の通りに要約できる。

- ①都市住民と地域住民との交流の形態は里山ごとに異なっている。
- ②都市住民は里山の管理者とビジターの両面において大いに地域に貢献している。
- ③保全活動に体験型プログラムを取り入れることで、多くの都市住民を受け入れることができています。
- ④都市のボランティアは遠隔地でも活動に参加しており、農村地域においては、都市住民が参加しやすいように条件を整えることが重要である。

施設面で整備が進んでいるなか・やちよの森と比較して、観音の森とふるさとむらは二次的自然をそのまま活用するタイプである。豊富な資金を背景に整備をした前者の里山と異なり、後者は一見するとかなり維持管理が困難なように写ってしまう。ただ、後者の事例ですら、各地で放置され荒れ放題になっている里山と比較すればまだまだ恵まれている状況であることを忘れてはならない。

里山再生を目的としている観音の森は、現在は台風の影響が残る森の整備や、湿地植物管理などが目的となっているが、活動開始から今年で9年を迎える。里山がある程度再生してきて目標が達成されてくると、活動を継続していくためには新たな目標が必要となっている。ふるさとむらでは、草刈が主であった里山管理に都市住民を巻き込んだ新たな要素を取り入れようとする試みが見られるようになっている。単に里山管理にとどまらず、地域全体の活性化への動きにつながっている。里山再生から地域再生への発展の方向性が示唆されよう。

調査事例に見られるように、それぞれの里山によって交流の形が異なっているが、いずれの活動も地域に対して重要な役割を果たしている。特に、高齢化、過疎化が顕著で、コミュニティが弱体化しつつある条件不利地域においては、中坪地区に見られたように、里



山の歴史を理解し、地域の行事を織り込んで、住民が一体となって里山を管理していく活動は評価できる。一方で、管理する里山の規模が大きく、地域住民の数が少ない里山となると、少なからず都市住民のボランティアが貴重な戦力となる。都市住民との交流が契機となって、地域住民の中に新たな意欲の高揚や取り組みが芽生えることも期待できる。地域住民と都市住民がお互いに力と知恵を出しながら交流し、地域に合っ

た保全活動を通して、美しい里山環境を維持していくことが望まれる。

---

主1) 農作業を手助けするボランティア(都市住民)の受け入れ先として登録する制度